

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
生活支援技術Ⅲ Independent Living Skill Ⅲ		1年	前期 1 / 2	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (介護福祉士養成課程必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
和田晴美	福祉棟 2 F	月・火・水 (授業時間以外)		授業中に指示します
授業の概要				
生活支援技術Ⅲでは、「こころとからだのしくみⅡ」で学んだことを基本に、生命と健康の維持のための、食事および排泄の意義と目的について学習する。また、食事および排泄に関するアセスメントの方法や、利用者の自立に向けた支援を行うための基本技術を習得する。				
授業の到達目標				
①食事と排泄の意義と目的について理解し、食事および排泄の支援に関する基礎知識を習得できるようにする。 ②安全で的確な食事および排泄介護の基本を理解し、実施できるようにする。 ③利用者の状況・状態に合わせた、食事および排泄の介助方法を理解し、実施できるようにする。				
授業の方法				
講義・演習を通して、食事・排泄の意義と目的、安全で的確な介助の技法、利用者のアセスメント、利用者の状態・状況に応じた介助の留意点などを学習する。授業の半分ほどが演習となる。学生は利用者役、介護者役を体験しながら実技を学んでいくが、単に手順を覚えることに集中するのではなく、利用者の立場から介護を受けとめ、より良い方法を考えていく機会としたい。				
学習の成果				
①食事と排泄の意義を列挙することができる。 ②基本的な食事介助、排泄介助の方法と留意点を説明することができる。 ③演習での利用者役やおむつ体験を通して、利用者に合わせた支援方法を選択することの必要性がわかる。 ④食事や排泄に影響する要因を列挙することができる。 ⑤演習を通して、自分自身の生活支援技術の不足部分を認識し、技術向上のための練習の必要性を認識することができる。 ⑥臥床している人へ、安全・安楽・的確におむつ交換をすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	授業ガイダンス（授業の進め方・評価方法等） 自立に向けた食事の介護 食事の意義と目的 介護者の役割			
第2回目	食事に関する利用者のアセスメント、利用者の状態・状況に応じた食事介助の留意点			
第3回目	安全で的確な食事介助の技法（演習①） 食事の介助 【課題 1 振り返り用紙】			
第4回目	利用者の状態・状況に応じた食事介助の実際（演習②） 視覚障害、咀嚼・嚥下障害、運動機能障害がある方への介助 【課題 2 振り返り用紙】			
第5回目	食事の介護まとめ 食事の支援 【グループディスカッション ①②の演習振り返り】			
第6回目	自立に向けた排泄の介護 排泄の意義と目的、介護者の役割			

第7回目	排泄に関する利用者のアセスメント、安全で的確な排泄介助の技法 利用者の状態・状況に応じた排泄介助の留意点	
第8回目	利用者の状態・状況に応じた排泄介助の実際（演習③）おむつ交換 【課題3 振り返り用紙】【課題4 おむつ体験レポート】	
第9回目	利用者の状態・状況に応じた排泄介助の実際（演習④）おむつ交換	
第10回目	利用者の状態・状況に応じた排泄介助の実際（演習⑤）ベッド上排泄 【課題5 振り返り用紙】	
第11回目	利用者の状態・状況に応じた排泄介助の実際（演習⑥）ポータブルトイレの介助	
第12回目	利用者の状態・状況に応じた排泄介助の実際（演習⑦）自由練習	
第13回目	実技の確認（おむつ交換）	
第14回目	排泄の介護のまとめ 定期試験	
第15回目	授業のまとめ 排泄の支援 【グループディスカッション ③④⑤⑥の演習およびおむつ体験の振り返り】	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	以下の視点で評価する。授業の準備（演習時の整容を含む）が整い、講義は集中しており、疑問点は質問して解決できること。ディスカッションでは他者の意見を傾聴し、自ら積極的に発言して学びを深められること。
レポート	20%	課題1、2、3、5の演習振り返り用紙の内容、提出期限厳守の状況などで評価する。評価基準Sは、演習を振り返り、課題に従って自身の学びを客観的に記述でき、介護に対する抱負が述べられること。
調査報告書	10%	おむつの購入から実体験までの「おむつ体験レポート」を課す。評価基準Sは、課題を十分に理解し、適切かつ正確な資料で分かりやすく工夫した内容構成であること。提出期限を厳守して提出すること。
小テスト		
中間・学期末試験	50%	実技試験（20%おむつ交換）および筆記試験（30%）を行う。筆記試験は記述問題。実技試験の評価の視点は、講義で説明する。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
①新・介護福祉士養成講座 第7巻「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版 ②生活支援技術の手引き		
履修上の心得・ルール		
講義・グループディスカッションともに積極的に参加することを望む。演習時は身だしなみを整えること。また、自己練習をし、技術の向上に努めること。教室での飲食、机上への飲み物の放置も禁ずる。やむを得ず欠席する場合は、必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。この授業は、「ところとからだのしくみⅡ」に引き続き行う前期後半のクォーター科目である。週2回授業があるので、注意すること。		